

災害・被ばく医療科学分野の人材育成による 知の交流拠点構築事業

採択大学等名

長崎大学

(共同申請校: 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学)

連携市町村名

川内村、富岡町、大熊町、双葉町

取組概要

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町、大熊町及び双葉町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらに国際放射線防護委員会(ICRP)や国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)といった国際機関と連携して「世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築する。

《人材育成目標》

1. 災害・被ばく医療科学分野の正しい知識を持った上で、福島の復興、発展を主導できる人材を育成する。
2. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、国内において本分野を担う人材を育成する。
3. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、グローバルに本分野を担う人材を育成する。

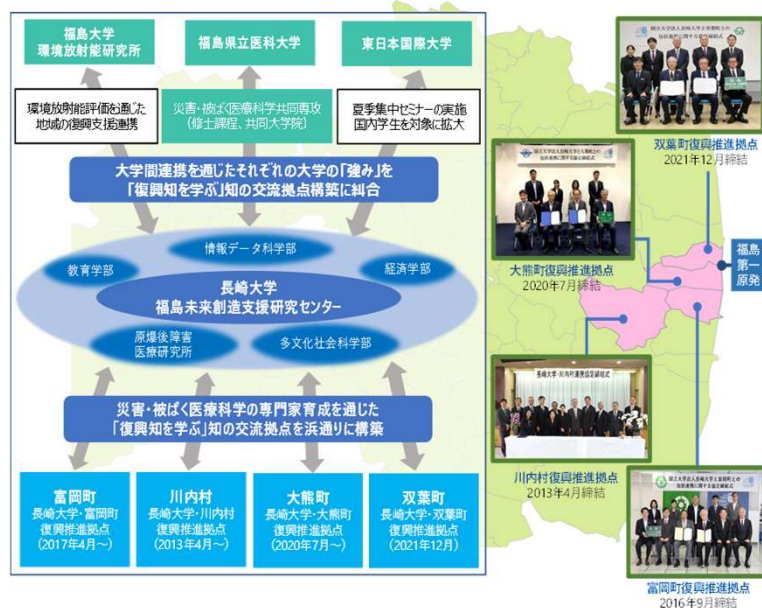


図1. 事業の実施体制概念図と連携町村

これまでの成果

1. 川内村・富岡町・大熊町・双葉町復興推進拠点の充実と報告会の開催

- 大熊町、双葉町役場内に教職員が常駐
- 各自治体の復興フェーズに沿った環境放射能評価、放射線リスクコミュニケーション支援
- 「住民と行政、専門家が一体となった原子力災害からの復興モデル」の実践

◆ 長崎大学復興推進拠点活動報告会

2024年度の活動報告会では、長崎大学の教授と震災当時に川内村総務課長であった井出氏が、3.11を振り返り、これからを展望する座談会を行った。



2. 福島県の将来を担うリーダー育成

- ◆ [長崎大学]夏季集中国内セミナー、[福島大学]環境放射能学セミナー、[東日本国際大学]復興学連続セミナー等
災害・被ばく医療に関する基礎知識を学び、震災後の経験や教訓について住民や有識者を交えた意見交換を行い、原子力災害からの復興の実際について学ぶセミナーを開催した。

3. 日本国内の人材育成

- ◆ [長崎大学]原子力災害復興学セミナー、長崎大学浜通り研修、[福島県立医科大学]福島災害医療セミナー等
学生や社会人を対象に、原子力災害への備えや廃炉・処理水について学ぶことを目的にしたセミナーを開催した。

4. 福島県浜通りにおけるグローバル人材の育成

- ◆ 災害・被ばく医療科学国際セミナー(International Advanced Training Course)、救急医学セミナー等
長崎大学修士大学院生を対象に、ICRP等の国際機関、海外の大学の専門家を招聘したトレーニングコースを開催した。

表1. 2021年度から2024年度におけるセミナー等参加者数(延べ)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	現地	オンライン	現地	オンライン	現地	オンライン	現地	オンライン
参加人数(人)	387	591	740	568	845	485	857	330
合計(人)	978		1,308		1,330		1,187	



今後の展開

1. 福島県浜通りの交流人口の拡大に貢献する。

浜通り地域を「災害・被ばく医療科学」の人材育成の場とすることにより、交流人口の拡大に貢献する。

2. 福島県の将来を担う世代における「災害・被ばく医療科学」の涵養を促進する。

学生のみならず、行政職員や学校・教育分野、産業分野等に対する研修、知識の提供を継続する。

3. 浜通りにおける「グローバル人材育成システム」を確立する。

長崎大学は2024年度に「グローバルリスク研究センター」を設置した。2026年度には学内に、「グローバルリスク研究科」を設置する予定であり、引き続き、福島県浜通りサテライトオフィス拠点を拠点にした学生の教育研究を推進し、グローバル人材育成体制を確立する。